


 研修コーナー

book review

「Emergency Care of The Women」

Eds. Mark D. Pearlman and

Judith E. Tintinalli

McGraw-Hill ￥12,750

(医学書院洋書部調べ)

総754ページからなる成書であり、タイトルは Emergency Care となっているが、日本では緊急処置・救急処置というよりは、産婦人科にてみられる各症状についての病態と一次処置について要領よくまとめられている。大きく7章つまり、I. General principles にはじまり、II. Pregnancy, III. Disorders in the pediatric patient and adolescent, IV. The reproductive age, V. Older Women, VI. Ultrasonography, VII. Gynecologic oncology に分けられており、各々の章を通して55項目について解説がなされている。Pregnancy の章では日常的に外来などで遭遇する妊娠に関連した症候（外妊、出血、悪阻、子癇、外傷、感染、心疾患など）に関して、必要に応じ、解剖、生理などの基礎的事項を解説したうえで、治療法について述べている。III～V章では各々の年齢に応じた性器出血、感染症、乳房疾患などについて解説が加えられており、さらにIV章では産科および婦人科の超音波診断法について多くの写真と図を併用して解説されている。さらに、最終のVII章では、とくに婦人科腫瘍患者における疼痛管理について非麻薬・麻薬系鎮痛剤の適応と使用法が詳述されている。

全体としていわゆるマニュアル本の構成をもちながら、各々の項目をより詳しく解説した書として位置づけられ、診療の場に常備して、必要な項目を適時参照するのに適している。

東京慈恵会医科大学産婦人科学教室

講師 木村 英三

離乳の食文化—アジア10か国からの調査報告—

和仁 皓明

中央法規出版（株） ￥2,200

本書はアジア各国の赤ちゃんの離乳食を調査することによりその社会における食べ物に対する認識の仕方を探った内容から構成されている。一つの社会において赤ちゃんの離乳の際にどんな食材が使われるのかを観察すれば、その食材が単なる栄養物を越えて、安全の保障であったり、ときには霊的象徴としての取り扱いをされることもある。アジア10か国は、東南アジアではベトナム、タイ、マレーシア、インドネシア、フィリピンが、南アジアからはネパールと北インド、東アジアでは中国、韓国、日本の離乳食の内容、離乳のやりかたのみならず食文化を各国の習俗を交えながら調査内容を報告しているので非常に興味を持って読める内容である。たとえば、日本での「帯祝い」のような受胎への祝い、韓国での出産準備と産婦の安静を保つための「産室」、ベトナムにおける出産後の母子を